

# Sedmikrásky

## ひなぎく

ヴェラ・ヒティロヴァー=監督  
Věra Chytilová

2人の女のこ。2人はこの世の無用の長物で余計ものである。  
そのことを2人は良く分かっている。  
役に立たない無力な少女達。だからこゝ彼女達は笑う。  
おしゃべりする、お化粧する、男達をだます、走る、ダンスする。  
遊ぶことだけが彼女達にできること。  
愉快なまじか騒ぎと絶対に本当のことを言わないこと。  
それが彼女達の戦闘手段。やつらを「きゃふん」と言わせるための。  
死ネ死ネ死ネ死ネ! 分かってるよ。私達だって「生きて」いるのよ。

岡崎京子 (マンガ家)  
1995 『ひなぎく』ビデオチラシコメントより

ヒティロヴァーのデビュー作  
『天井』併映!!





## 『天井』

('62/チェコスロヴァキア/  
モノクロ/42分/  
FAMU卒業製作)  
オーバーハウゼン映画祭受賞  
原案: ヴェラ・ヒティロヴァー  
ハヴェル・ユラーチェク  
脚本・監督:  
ヴェラ・ヒティロヴァー  
撮影: ヤロミル・ショフル  
音楽: ヤン・クルサーク  
出演: マルタ・カノフスカ  
ヨゼフ・アブラハム  
ジュリアン・ヒティール  
イジー・メンツル

ファッション・モデルの仕事をするマルタは、大学もさぼりがちで友達に心配されている。華やかなステージやグラビアの裏の、雑然とした楽屋風景や単調な撮影。パトロンと一緒に、音楽やダンスやお酒に身をまかせても何か空しさを感じられる。

モノクロの陰影が美しく、音楽や会話の断片、ラジオや皮肉なナレーションを使って主人公の姿が描かれる、チェコ・ヌーヴェルヴァーグの幕開けに相応しい短編。『天井』は、卒業製作として作られるが、国外で賞を取り、次に作られた短編ドキュメンタリー『蚤の袋』も批評家の間で話題になったため、短編2本を上映する形で、異例の劇場公開が決まった。『監視された列車』や『つながれたヒバリ』で有名なイジー・メンツル監督もFAMUの仲間として、友情出演している。

ヒロインにはファッション・モデルをえらんだ。その職業は私の考えを象徴的にあらわしていたからである。モデルという職業は、人間が中心にいつづけ、あくまで自己を中心にして、しかも自己愛を拭いさらないと、成功できない。自己を道具として見るができないと、本物のモデルにもなれない。自己についての真実を避け、臆病で、真実を追究せず、真実なんか何もみたくないと思っているようでは、人間そのものの存在価値も生まれず、モデルにもなれなくなる。(中略) 天井とは限界という意味である。だがこの限界は、多くの場合、私たちの弁解にすぎない。自己の能力のなさを認めたくないための弁解である(ヴェラ・ヒティロヴァー、「天井」についてより抜粋) ●前売券(劇場別)¥1400発売中! 劇場窓口のみポストカード付き(当日一般¥1700)

創造は誇張がなければあり得ません。誇張のあらわれ方やスタイルは、さまざまです。題材のとりあげ方、全体の構成、視覚的なくみ立て、視覚と聴覚のかけ合わせ、演技のスタイルのすべてに、誇張はあらわれ、表現することができます。誇張は多様ですが、大切なものはその限度を見つけることです。誇張の限度の発見は、目的を生かすためにどれだけ実験をおこなえるかにあります。危険をおかさず探求もしないひとは、失敗しないかわりに発見への希望も見出せません。映画を作るうえでのアイデアが、どれだけ誇張されて普遍的な意義をもつかということです(ヴェラ・ヒティロヴァー、1981年11月・質問への回答より抜粋)



## 『ひなぎく』

('66/チェコスロヴァキア/  
カラー/75分/バランドフ撮影所)  
原案: ヴェラ・ヒティロヴァー  
ハヴェル・ユラーチェク  
脚本: エステル・クルンパホヴァー  
ヴェラ・ヒティロヴァー  
監督: ヴェラ・ヒティロヴァー  
美術: エステル・クルンパホヴァー  
ヤロスラフ・クチェラ  
衣装: エステル・クルンパホヴァー  
撮影: ヤロスラフ・クチェラ  
音楽: イジー・シュスト  
イジー・シュリトル  
出演: イヴァナ・カルバノヴァー  
イトカ・ツェルホヴァー



金髪のボブにひなぎくの花輪を乗せた姉と、こげ茶の髪をうさぎの耳のように結び、レースのショールを首にまとう

妹。2人は共にマリエと名乗り、男達を騙しては食事をおごらせ、嘘泣きの後、笑いながら逃げ出してしまう。名前も嘘だし、姉妹かどうかよく判らない。部屋の中で、牛乳風呂を沸かし、紙を燃やし、ソーセージをあぶって食べる。グラビアを切り抜き、ベッドのシーツを切り、ついにはお互いの身体をちゃん切り始め、画面全体がコマ切れにされる。

色ズレや、カラーリング、実験的な効果音や光学処理、唐突な場面展開など、あらゆる映画的手法が使われ、衣装や小道具などの美術や音楽のセンスも抜群。

ラストの党のパーティー用の豪華な食事をメチャメチャにするシーンが問題とされ、その後につくった『楽園の味』の評価もあいまって、ヒティロヴァー監督はその後7年間、映画製作を許可されなかった。

この映画のふたりの女の子は何だか涙が出るほど自由に生きている。可愛い服を着て、おいしいものをご馳走してもらって、ダンスをして、いつも笑って…。『ひなぎく』ほど悲しいくらい美しい映画は他にはないと思う。

野宮真貴(ピチカート・ファイヴ)

ヴェラ・ヒティロヴァー Věra Chytilová

1929年2月2日チェコスロヴァキアのオストラヴァ(モラヴィア)生まれ。バランドフ撮影所で仕事をした後、映画大学FAMUに入学。1962年卒業。イジー・メンツルやミロシュ・フォルマン、ヤン・ネメツ、ヤロミール・イレシュなどと、チェコ・ヌーヴェルヴァーグを世界的に知らしめた代表的な監督。国外での賞も多数。近年もチェコ共和国で新作を撮り続け、FAMUでは後進の指導もつとめている。

京都 12月13日(水)~20日(水)

\*12/16全は別番組にて休映します  
12/13(水)~15(金) ひなぎく 2:40pm  
12/17(日)~19(火) ひなぎく/天井 8:45pm  
12/20(水)のみ リンゴゲーム 9:00pm

京都みなみ会館  
☎075-661-3993  
九条大宮・近鉄東寺駅西へ150m

大阪 12月23日(土)~29日(金)

\*連日 8:05pm~レイトショー上映  
12/23(土)~26(火) ひなぎく/天井  
12/27(水)~29(金) リンゴゲーム

劇団ミュージアムスクエア  
☎06-6361-0088  
泉の広場M-10右上がる東へ5分

『リンゴゲーム』ヒティロヴァー作品

(76/チェコスロヴァキア/95分)シネマ映画祭受賞  
復帰後第一作。音楽の使い方や独特の視点は  
健在! イジー・メンツルが浮気性の男性を演じる。